

# 備えは日常のなかにある

天災地変が起きたとき、優先すべきは「命を守る」ことです。次に大事なものは健康でいながら復旧・復興へ向かうことですが、その際に考えざるを得ないのが「水」。津波や洪水が起きたとき水は忌むべきものですが、暮らしを取り戻そうとするときに水は不可欠なものとなります。災害は予測しづらいので、個人的な備えも疎かになりがちです。できれば水も食料も、そして人とのつながりも、ふだんの生活のなかで少しずつ備えておきたいものです。江戸時代と現代の災害対応。身近な水源や防災井戸、銭湯などが地域で果たす役割。トイレや物資を備える心構え。そしてふだんからの人づきあいなどを、水との関係も含めて考えてみました。



井戸水カフェの居心地は?



震災後の生活用水は?



## 目次

4 巻頭言「ひとしずく」  
水は生かしておくものだ  
赤坂憲雄

6 「災害史」  
先人たちは災害にどう立ち向かったのか?  
——江戸時代の村と農民にみる復興のあり方 渡辺尚志

10 「災害対応」  
日本の災害対応をどう変えるべきか?  
——平時のつながりが非常時に生きる 菅野拓

14 「地下水利用」  
避難生活を支えた身近な水源  
——力を合わせて地下水で暮らした日々  
石川県珠洲市馬繰町

18 「防災井戸」  
日々の「くらし水」が命綱となる  
——防災井戸が結ぶ笑顔のコミュニティ  
三重県名張市蔵持地区



22 「銭湯」  
銭湯が災害時の避難場所に  
——個別の事故や火災でも無償で入浴  
東京都公衆浴場業生活衛生同業組合 大田区

26 「トイレ」  
いのちと暮らしを守る災害時のトイレ  
——個人的な備えと地域の備え 加藤篤

29 「個人の備え」  
最強の災害対策は小さな習慣を増やすこと  
——普段から備えておくべきモノと心 辻直美

32 「人とのつながり」  
「余剰」を交換し合える社会へ  
——災害時にも大切な「顔が見える関係」 山崎亮

34 「文化をつくる」  
ふだんから備えたい心と水  
編集部

36 「食の風土記」  
伏流水で洗って食す涼菜「水だんご」  
富山県黒部市

38 「防災井戸」  
みず・ひと・まちの未来モデル12  
京都の食文化の一端を担う日常化された  
野田岳仁

44 「Go! Go! 109水系」  
過密都市に潤いをもたらす余白 多摩川  
坂本貴啓

50 センター活動報告  
編集後記/ご案内  
(敬称略)

51 自転車で川を巡って見えたこと

